骨折リエゾンサービスによる骨粗鬆症治療

整形外科　部長　兼　リハビリテーション医学科　部長　新関　祐美

骨粗鬆症と脆弱性骨折

皆様は「骨粗鬆症」と聞いて、どんな印象をお持ちでしょうか?

1980年代までは、骨粗鬆症は骨の老化とされ、病気と思われていませんでした。しかし現在では「骨強度（骨密度と骨質）が低くなることによって骨折しやすくなる病気」と定義されています。骨粗鬆症による骨折は「脆弱性骨折」といいます。わずかな外力で骨折を生じてしまい、痛みだけでなく、運動機能が障害されて、日常生活に悪影響を及ぼします。「骨折・転倒」は介護保険の要介護になる主な原因の第4位を占めているほどで、健康寿命を縮めてしまいます。骨粗鬆症の治療というのは、この脆弱性骨折を予防するために行います。

当院整形外科では年間750件以上の手術をしており、そのうち20%以上が骨粗鬆症から生じた脆弱性骨折でした。しかし調べたところ、なんと、その脆弱性骨折患者さんのうちわずか1割程度の患者さんしか、これまで骨粗鬆症治療を受けていませんでした。

皆様は普段から骨の健康についてなんとなく気になっていらっしゃる方も多くおられると思います。地区のクリニックでは、骨粗鬆症が疑われる場合の検査や、診断がついた場合の治療などしてくださいます。皆様、かかりつけのクリニックの先生にぜひご相談してください。

骨折の連鎖（ドミノ骨折）

さて、恐ろしいのは、骨折が治ったと思っても、骨粗鬆症自体が改善しなければ、次々と骨折を生じるリスクを抱えたままであるということです。再度、別の場所に骨折を生じることを「骨折の連鎖（ドミノ骨折）」といいます。初回の脆弱性骨折のあと1年後のドミノ骨折のリスクはなんと5.3倍と言われています。ですので、一度脆弱性骨折をしてしまったら、次の骨折をしないために、きちんと骨粗鬆症治療を始めて、続けることが、大事になってくるのです。

骨折リエゾンサービス

当院整形外科は急性期病院といって主に手術治療と急性期リハビリテーションを担うことで地域医療に貢献しています。脆弱性骨折の手術はこれまでたくさん行ってきましたが、骨折の治療と同時に、患者さんご自身に骨粗鬆症治療への理解を深めていただき、再骨折をしないで、いつまでも生き生きと暮らしていただきたい。そういった思いから、2022年度から「骨折リエゾンサービス」を始めました。

リエゾン（liaison）とは、本来は「音がつながること」を意味するフランス語で、「仲介」「橋渡し」「つなぎ」などとも訳されます。当院では、50歳以上の骨粗鬆症による橈骨遠位端骨折・上腕骨近位部骨折・大腿骨近位部骨折の入院手術患者さんに対して、整形外科医とともに、内科医、歯科医、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーションセラピスト、放射線技師、地域医療連携室、医事課職員が、ワンチームとなって連携して再骨折予防のサポートを行っています。当院での治療は基本的に急性期のみとなりますので、治療の継続は回復期病院やクリニック・診療所の先生にお願いしています。こうして、院内でも、院外でも、連携して患者さんの治療にあたっていきます。

市民の皆様におかれましては、くれぐれもケガしないことが一番ですが、万が一の骨折の時にはこのお話を思い出していただき、骨粗鬆症も治療していきましょう。